

文・写真 松澤美穂

地方 民鉄 紀行

富士急行株式会社



富士山の最も近くを走る
観光列車の「富士登山電車」。
凝らされた工夫は、
快適に過ごすための工夫にも
つながっている。

「東海道新幹線に乗るときは、できるだけ
け富士山の見える側の席を予約する」と
という人がいる。「どつせなら富士山が見た
い」という気持ちは分からなくはない。ビル
の谷間、街並みの遠く向こうに、ちらりとで
も富士山の姿が見えると、ちよっと得した気
分になる。

見えると嬉しい、できれば見たい。そんな
富士山の最も近くを走る富士急行線には、富
士山を眺めるための工夫が凝らされた電車が
あるという。

電車の中は、サロンか書斎か

出発は大月駅。改札を抜けると、ホームに
は霧囲気のまったく異なる2両編成の電車が
向かい合って停車中。全体に「きかんしゃ
トーマス」のイラストが散りばめられた、賑
やかな車体の「トーマスランド号」と、本日
のお目当て、さび朱色の落ち着いた外観を持
つ「富士登山電車」だ。

そろそろ出発するらしいトーマスランド号
の車内を先にのぞくと、外観に負けず劣らず
賑やかな車内は、これまた賑やかな乗客で
いっぱい。あちこちで上がる子どもの笑い声
は、跳ね返ってホームにまでこぼれてくる。
はしゃぐ子どもをたくさん乗せて、弾むよう
に駅を出て行くトーマスランド号を見送っ
て、今度は富士登山電車の方へ。

扉の脇には女性の姿。全席予約制の富士登
山電車には、アテンダントが乗務する。「お
好きなお席にどうぞ」。にこやかに声を掛け

られ見渡した車内には、2人掛けのソファに
向かい合ったボックスシート、窓側を向いて
設置されたカウンター席……。電車らしから
ぬ板張りの床に、ゆったりと配置されたさま
ざまなデザインの座席。

JR九州の新幹線「つばめ」や岡山電気軌
道の「MOMO」をデザインした水戸岡鋭治
氏の手による車内には、関連グッズを飾った
ショーケースや富士山に関する書籍を揃えた
書棚まで設えられて、電車というよりサロン
か書斎だ。

2両の車両は、「青富士」「赤富士」と名前
が付けられている。車両の連結部分には、そ
れぞれの名前が書かれたのれんが下がり、座
席を選びながら「青富士」から「赤富士」へ
移動すると、雰囲気がかがらりと変わる。

白っぽい木材と青を基調とした布張りの座
席が、すっきりと明るい印象を与える「青富
士」に対し、「赤富士」の木材は濃い茶色。
赤茶色のシートと相まって、ぐっと落ち着いた
雰囲気漂う。

二つの車両を行ったり来たり。散々迷って
結局、最後は「赤富士」のカウンター席に着席。

お待ちかねの富士山は

「ご自由に席を移ってお楽しみください」。
動き出した車内は席の移動が可能で、8割く
らしいの乗客率。

ほとんどが観光客らしい乗客たちは、勧め
のままに席を移動してみたり、ゆっくり車窓
を眺めたり。思い思いの時間を過ごす。



青富士の車両にあるショーケース



大きな窓は外の景色をたっぷり楽しめる



富士急行線 【ふじきゅうこうせん】

標高 358 m の JR 大月駅から標高 857 m の
河口湖駅まで、高低差 499 m を登る山岳路
線。総延長 26.6km を 1 時間弱で結ぶ。



書斎のような落ち着いた赤富士



赤富士の“のれん”



青富士の“のれん”



明るくサロンのような青富士

見えない富士山にため息をつきつつも、快適な車内でくつろいでいるうちに、河口湖駅に到着。所要時間は約50分。
もう少し乗っていても良かったなと思いつつ、向かいにはレトロな雰囲

「天気の良い日は、こんな風に見えるんです」。アテンダントが申し訳なさそうに座席を回り、一昨日撮ったという写真を見せてくれる。気温が高くなると、富士山の周辺には雲が集まりやすいんだとか。

ビール片手に

困気のこげ茶色の電車が停車中。夏季週末限定で富士山の水を使って作られた「ふじやまビール」を販売する「ビアホール列車」だ。
提灯のほりで飾られた車内にはテーブルもあって、「ちょっと車内で一杯」もできるが、「発車待ちの電車の乗客が買っていくことがほとんどですね」とのこと。多い日には100〜150杯も売れるほどの人気だとか。
しばらく様子を見てみると、折り返し大月駅へと戻る発車待ちの富士登山電車から、女性1人、走り出てきてビールを1杯お買い上げ。
あの快適な車内で、ビール片手に過ごしたら、きつと乗車時間はあつという間。羨ましい休日の後だ。

さて、河口湖駅の天気は上々。富士山はまだ薄雲の中だけれど、「もしかしたら」の期待を込めて、河口湖へ移動してみる。
休日の河口湖は、まさに観光地の賑わい。湖畔の観光施設やロープウェイの乗り場近くは特に人気で、外国語も飛び交っている。あちこちに点在する富士山のビューポイントにも人は多いが、肝心の富士山が雲の中では盛り上がりはイマイチ。

それでも、雲間にちらほら青空がのぞき、富士山の裾野、稜線がうつすら見えるときもある。少し見ると、あともう少しの欲も出てくる。
あきらめきれない。帰れない。

帰るに帰れない



お客さんが一番多いのは、夕方4時くらい。



本来なら、沿線にはこんな景色が見られる（写真：富士急行）